

【附属機関名称】 会議概要

会議名	令和6年度 第3回はつらつ高齢者部会		
事務局	福祉部高齢者施策推進室地域包括ケア推進課		
開催年月日	令和7年2月5日（金）		
開催時間	午後2時 ～ 午後4時		
開催場所	足立区役所 別館 3階 301会議室		
出席者	酒井 雅男 部会長	賀川 幸英 委員	佐藤 浩史 委員
	廣島 高志 委員	小浦 梓 委員	山ノ内 聖一 委員
	内山 清 委員	堀 崇樹 委員	半貫 陽子 室長
	神家満 麦 係長	河内 政之 係長	黒川 真美 係長
	森島 康太朗 係員		
欠席者	山中 崇 副部会長		
会議次第	別紙のとおり		
資料	<p>①次第            ②委員名簿（令和7年1月30日現在）            ③【別紙1】令和7年度「あだち脳活ラボ」開始に向けた進捗について            ④【チラシ1】スマホ貸与会チラシ            ⑤【チラシ2】あだち脳活ラボリーフレット（案）            ⑥【チラシ3】認知症予防講演会チラシ            ⑦【別紙2】令和7年度「あだち脳活ラボ」利用促進に向けた高齢者へのスマートフォンサポート事業の概要            ⑧【別紙3】令和7年度介護予防事業の見直し（案）について            ⑨【別紙4】令和6年度「ぱく増し」事業の進捗状況について            ⑩【別紙4-1】ぱく増し専用はがき付き応募用紙（ピンク）            ⑪【別紙4-2】あだち広報1月25日号、地域学習センターミニコミ紙（2種）            ⑫【別紙4-3】手ぬぐい体操（5校）            ⑬【別紙5】令和6年度「食べてフレイル予防」事業の進捗状況について            ⑭【別紙5-1】栄養講座チラシ            ⑮【別紙6】生活支援体制整備事業における課題および今後の取り組みについて            ⑯【別紙6-1】_会議体系図（R6.11.1）            ⑰【別紙6-2】地域課題の抽出に関する報告書（基幹地域包括支援センター一層業務報告）</p>		

○河内係長 皆さん、お疲れさまでした。今日は通常の部会に加えて、来年度新たに始まるスマートフォンを活用した「あだち脳活ラボ」というシステム開始に当たって、体験の時間を頂きましてありがとうございます。

測定会ということで体を使うものに参加いただいてお疲れのところを申しわけありませんが、部会を始める前の時間にやっていただいた皆様の感想会を少しだけしたいと思ひまして、それを基に足りない部分ですとか直せるものに関してはよくしていきたいと思ひしております。体験いただいた5名の方には申しわけありませんけれども、少しお話しいただければと思ひます。

では、勝手ながら私から時計回りで山ノ内先生からお願いしてよろしいでしょうか。

○山ノ内委員 お世話になりました。ありがとうございます。

最初の体力測定に関しては、片足立ちが最初にやったほうが良いと思ひます。やはり立ち上がりをやったり、歩いた後だと、恐らく高齢者はほとんど片足で立てないと思ひますので、もしやるのであれば、やはり最初に片足立ちをやって、その後に行ったほうが良いかなと。スクワットは最後のほうが良いと思ひます。

あと、裸足が良いと思ひます。今日は靴を履いてやってみたのですが、やはり裸足でやったほうが再現性があると思ひますので。

それから、立ち上がりも歩き始めもそうなのですが、椅子に深く座ることはあまりいいことではなくて、立ち上がりときの角度を統一したほうが再現性があるので、むしろ膝とつま先の位置を揃え

るとか、椅子に深くというのはちょっとお勧めできないと思ひて、やってみて感じました。それが体力測定的にはあれかなと思ひました。

あとは、やはり時間の長さとか、すごく長く感じてしまう人は感じてしまうかなと思ひるので。最後のBテストはかなり長く感じるのですが、その辺は集中力も測定検査だと思ひのですが、ちょっと長いかなという気がしました。

以上です。

○河内係長 ありがとうございます。

では、小浦さん、よろしく願ひします。

○小浦委員 東京都栄養士会管理栄養士の小浦です。

体力測定も認知機能も両方にもうちょっとあったらいいかなと思ひるのが、楽しさでしょうか。全然楽しくない。検査というような色が特に認知機能のほうは強くて、最後5分間の試験もすごく長く感じて、結構疲労感を感じると思ひるので、その割にLINEで受け取った結果が、そんなにわあっと感じるものでもない。点数で表されているところもあって、そうすると、また3か月後にやろうとか1年後にやってみようとか、そういうわくわく感につながりにくいかと感じました。

あと、私は初めにやらせてもらったのですが、多分待ち時間がすごく長くなるので、予約制とかこれぐらいの時間に来てくださいみたいなことをしないと、すごく待ったのにすごくしんどいことをさせられて、思ひほどの結果じゃなかったらモチベーションが下がりそうな雰囲気は感じてしまいました。

以上です。

○河内係長 ありがとうございます。

では、続いて廣島さん、お願いします。

○廣島委員 通所部会の廣島と申します。よろしくお願ひいたします。

今ちょうどLINEのグラフとかそういった部分を見ているのですが、同年代の平均を上回っている、下回っているというのが、私が多分上回っているからだと思うのですが、もうちょっと同年代がこのぐらいだとか多分ありますよね。そこがちょっと分かりづらかったので、プラスマイナスというか、自分との比較は簡単に分かると思うのですが、他者との比較となったときに、私がやったからなのか分からないのですが、全部緑色になったのです。中には緑色になった方もいらっしゃると思いますが、同年代はこのぐらいだよと何か見られるといいのかなと思いました。

あと、先ほどおっしゃったのですが、やはり待ち時間は恐らく長くなるだろうなということと、Bのボタンを押すのが5分間となっているので、そういったところで少し退屈さも出てしまうのかなと私も同じ意見です。

ただ、持続力という項目が、そこは仕方ないのでしょうかけれども。ただただ個人的な所感ですので。

以上です。

○河内係長 ありがとうございます。

では、内山さん、お願いします。

○内山委員 シルバー人材の内山です。よろしくお願ひいたします。

先に、今のBでいうと全く一緒に、3分程度でいいかなと思いました。

あと、最初の運動から行くと、1回回るやつで次5回上がる。これ一緒にして

もいいのではないかと考えているのです。これ、1回ってあまりにも短いというかトータルで5回ぐらいやって、立ち上がりも一緒にやってしまえばいいのではないかと思いました。

バランスのほうは、まずは自分がすぐに崩れたのでショックでした。下がビニールだから滑ってしまうのですよね。ですから先ほどの裸足じゃないですが、下が滑らない形にしないと測定に誤差が出てしまうのではないかと思いますので、しっかりマットにしたほうがいいかなと思います。

あとは記憶力とかいろいろありましたけれども、それなりにいいと思います。まだ選べるからいいかなと思いました。あれを全部書けと言われてたら15個は覚えられないので、あの程度ぐらいではないとショックが大き過ぎると感じました。以上です。

○河内係長 ありがとうございます。

では、堀さん、よろしくお願ひします。

○堀委員 最後まで行けなくて結果が見られていないのですが、廣島さんのお話を聞いて、同世代の平均値みたいなものがあったりすると、ちょっと張り合いというか。

○廣島委員 何歳相当とかね。

○堀委員 そうですね。そういうものが出るとうれしいというか意味合いが出てくるところがあるかと思いました。

私は運動習慣がなくて、余り体力に自信がないのですが、それでやった感覚でいうと、特に検査ですからこういうものですよと言われると、はいとやるだろうと感覚です。ただ、やはりやるときの動機づけがあればなど。今後サービスを利

用してもらうためには、ないとわざわざしないだろうなど。しない理由は、やはり自分の体力にそんなに自信がないのですよね。今日は特にそうでしたけれども、ギャラリーがいっぱいいる。前の人がいる、後ろの人がいる、先生がいる、じっと見ている、という中で特別優れたスコアも出ない、自分の醜態をさらしたいと思わないというところが、やはりそこから辺の誘引づけがちょっとあるかなと思いました。

やはり老人クラブの仲間グループで入るとか。そうするとさらに長い行列になるか分からないですが、仲間同士だったら笑える気がするのですけれども、1人で、しかもギャラリーがたくさんいると緊張するだろうなと思いました。

検査自体はこんなものかなという感じですよ。

以上でございます。

○河内係長 ありがとうございます。

では、今日は測定会経験の前に実際の脳活ラボのLINEの友達登録をしていた上での測定会ということだったのですが、友達登録そのものに対して何か分かりづらいとか、何かご意見がもしありましたらお伺いできればと思うのですが。

廣島さん、お願いします。

○廣島委員 先ほど、おすすめの動画が話題で出ていたと思うのですが、これは具体的にどういう感じのおすすめが出てくるのですか。

○神家満係長 おすすめ動画は配信でメッセージが届くのですが、ご自身である場合は、「探す」から「動画配信」を押していただくと、お一人で視聴するか皆さんで視聴するか選んでいただいて、お

一人を選ぶと、最初は利用規約が出てくるので同意を押していただくと動画メニューの欄が表示されます。

これが週2回のペースで、先ほどの体操、音楽、美術など、3つのプログラムが1つのセットになって自動で配信されます。

○廣瀬委員 これが一種のおすすめになる。

○神家満係長 そうですね。

○廣瀬委員 みんなで視聴する場合、こういうものは出るのですか。

○神家満係長 みんなで視聴する場合は、皆さんで好きなジャンルの動画を1つ1つ選んでいただくような形になっています。

なぜこのようなパッケージで送るかという、やはり動画のコンテンツがたくさんあるがゆえに、何からやっていいか分からないという方もいらっしゃるかと思ひまして、そこを専門家の先生にも監修していただいているのですが、これとこれを組み合わせるといいというものを選んでいただいて、それをパッケージで配信するようになっています。

○廣瀬委員 パッケージでこれからやる予定もあるのですか。

○神家満係長 それは1つ1つの動画なのですが、先ほど開いていただいた。

○廣瀬委員 1人のほう。

○神家満係長 はい。それは3つの動画が1つになってパッケージになっていますので、そちらを選んでいただければ問題ない。

○廣瀬委員 個人的に感じたことは、今言ったようにすごく動画が多くて、プラスにもなると思うのですが、多さがゆえに見づらいということは確かにあると思

ったので、例えば、自分のお気に入りの動画があったら登録できるとか、あとはパッケージも、上半身の筋力が落ちているとか下半身とか認知とかその方それぞれの悩みがあると思うので、こういった方向けみたいな感じのおすすめ配信があると見やすいのかなと思いました。

○神家満係長 確かにそうですね。

○廣瀬委員 あともう一つが、イベント検索のところで教室とか諸々出ていると思うのですが、会場のところに住所か何かあったほうがいいのかと感じました。

以上です。

○神家満係長 ありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。

まだまだたくさんご意見を頂きたいところなのですが、部会を始めさせていただきたいと思います。

それでは、開発事業者の皆様、ありがとうございました。

○事業者 ありがとうございました。

○司会 今日頂いたご意見を参考に直せるところは直していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○酒井部会長 実際に体験していただくとご意見もすごい具体的ですよ。

導入部分ともう一回またやる動機づけの部分がやはり大きいですね。ほかよりも優れているとボンと出るのであれば楽しいかもしれないですが、平均より下の数字が出るとやはり悔しいとなりますよね。モチベーションと言ったらいいか、どうやって続けていくかもありますね。

それから配信のおすすめにしてもやはり、みんな個性があるから、おすすめもその人に合った希望するおすすめが来るといいなと。

○小浦委員 ほんとにそう思いますね。

○司会 ありがとうございます。

○神家満係長 一応動画については、個人個人の方向けにおすすめ動画を個別にカスタマイズして送るのはまだ難しいのですけれども、取組状況に応じて励ましのメッセージ、「もう少しやってみましょう」とか「はつらつ測定会にそろそろ行きませんか」、「前回から期間が空いているのでそろそろ行きませんか」、というアクションにつながるような、背中をそっと押すメッセージはお1人おひとりに文言を変えてお送りするのを実装する予定で考えています。

○酒井部会長 1人ひとりへのメッセージが1つのおすすめ動画のヒントみたいな。

○神家満係長 そうですね。動画がそうなっていくといいかなと思います。

○酒井部会長 あと体を動かす体力測定、別々にやるのではなくまとめてやれる部分があるのではないかというのはずごく分かりやすかった。

滑らないようにして。

○神家満係長 安全管理は本当に充分気をつけてやりたいと思います。

○酒井部会長 裸足でやったほうが測定の誤差が少なくなるというのはなるほどなと思います。

○神家満係長 一方、靴を脱いで靴下を脱いでというところが、我々もそのときに何かあったりしたら心配な部分です。

○酒井部会長 確かに前の方が裸足でやって、自分は同じ場所に乗りたくないとかあるかもしれないですね。難しいですね。本当にこればかりは。

ニンテンドーのWi-Fi、あれにちょっと似ているような雰囲気を感じて見てい

たのですが、センサーで感知してうまく  
いっているとか、飛ばしてとかいうのを  
感知していくと。

○神家満係長 Wi i だったら楽しいで  
すけどね。すみません。

○酒井部会長 それでは部会のほうも案  
件が今日もたくさんございまして、スム  
ーズに進められたらと思いますので、始  
めさせていただきたいと思います。

では、司会の方、お願いします。

○司会 本日は、はつらつ測定会を体験  
いただき、いろいろなご意見ありがと  
うございました。

定刻から20分ほど過ぎてしまいまし  
たが、ただいまから「令和6年度足立区  
地域包括ケアシステム推進会議第3回は  
つらつ高齢者部会」を開催いたします。

本日はお忙しい中、ご参加いただき、  
誠にありがとうございます。

本日の司会は、高齢者地域包括ケア推  
進課介護予防生活支援係の森島が担当さ  
せていただきます。よろしくお願いた  
します。

初めに、傍聴の席の皆様にお願いがご  
ざいます。会場内でのビデオカメラ、カ  
メラ、携帯電話等のご使用はお控えく  
ださい。ご理解とご協力をお願いいたし  
ます。

次に、資料の確認をさせていただきます  
す。

1 枚目が次第「令和6年度足立区地域  
包括ケアシステム推進会議第3回はつ  
らつ高齢者部会」の次第でございます。

2 枚目は「はつらつ高齢者部会委員名  
簿」。

3 枚目は別紙1「令和7年度『あだち  
脳活ラボ』開始に向けた進捗について」。  
こちらは別添資料が3点あります。

続いて別紙2「令和7年度『あだち脳  
活ラボ』利用促進に向けた高齢者へのス  
マートフォンサポート事業の概要につ  
いて」。続いて別紙3「令和7年度介護  
予防事業の見直し(案)について」。

別紙4「令和6年度『ぱく増し』事業  
の進捗状況について」。こちらは別添  
資料が4点ございます。なお、別添  
資料につきましては、別のクリップ留  
めにあります。

続いて別紙5「令和6年度『食べて  
フレイル予防』事業の進捗状況につ  
いて」。こちらは別添資料が1点ござ  
います。

続いて別紙6「生活支援体制整備事  
業における課題および今後の取組みに  
ついて」。こちらは別添資料が2点  
ございます。

資料は以上でございます。不足等が  
ございましたら事務局にお声がけく  
ださい。

よろしいでしょうか。

この会議は、足立区地域包括ケアシ  
ステム推進会議はつらつ高齢者部会  
設置要綱第6条により、委員の過半  
数の出席により成立いたします。現  
在、過半数に達しており、この会  
議が成立いたしますことをご報告  
いたします。

皆様からの活発なご意見、ご質問  
を頂くため、迅速な会議進行にご  
協力いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、この会議の会議録は公開す  
ることとなっております。記録の関  
係上、ご発言の前にはお名前をよ  
ろしくお願いたします。

それでは、初めに酒井部会長から  
開会のご挨拶をお願いいたします。

○酒井部会長 皆様こんにちは。

本当は私も測定会に参加する予定  
だったのですが、皆さんの報告を受け

て間接的ですが体験させていただきました。

今日は「はつらつ測定会」と「あだち脳活ラボ」のダブル測定会が運営されていくに当たって生で見えていただいて、それを前提にこの部会での検討、協議を進めていく日になります。

今日は協議事項と報告事項がありまして、結構内容が豊富です。皆様のご意見等もいっぱいお伺いしながら充実した部会にしたいと思います。本日はよろしくお願いたします。

○司会 酒井部会長、ありがとうございます。

それでは議事に入らせていただきます。これからの議事進行につきましては、酒井部会長、よろしくお願いたします。

○酒井部会長 それでは議事に早速入らせていただきたいと思います。

まず次第の2「協議事項」に入ります。「令和7年度『あだち脳活ラボ』開始に向けた進捗について」、事務局からまずご報告をお願いしたいと思います。

○河内係長 では、こちらにつきましては、私、介護予防生活支援担当の河内からご説明させていただきたいと思います。

本日は、体験に参加いただいた委員の皆様、また部会からご参加の委員の皆様もお忙しい中、ありがとうございます。全体の資料のご提供が直前のメールになってしまいまして大変申しわけありませんでした。

では、私から別紙1「令和7年度『あだち脳活ラボ』開始に向けた進捗について」ご説明いたします。

先ほど体験いただいたものと、それ以

外に様々なサポートや普及啓発の活動を進めていきたいと考えておりますので、この点についてのご説明になります。

今回の「あだち脳活ラボ」ですが、令和7年4月から本格開始の予定となっています。

大変失礼いたしました。上から2行目「第一次基盤整備」の「次」の部分が誤字になっています。こちらは修正させていただいて後ほど報告させていただきたいと思います。

先ほど体験いただいたところなのですが、あくまでも途中の段階のものもありますので、今後の取組も進捗という形で予定としての報告とさせていただきます。

では、まず1にあります「デモ動画視聴」ということなのですが、通常、区の事業はチラシとか広報の周知がほとんどなのですが、今回この脳活ラボについて動画をつくって、区の学習センターにあるデジタルサイネージの電子掲示板等でも放映して広く見ていただこうと思っております。今回、その動画を簡単に見ただけであればと思いますので、お時間をちょっと頂ければと思います。

では、お願いたします。

(動画視聴)

○河内係長 ありがとうございます。

手短なものではあるのですが、こういったCMのような形で区の施設と区のホームページでも御覧いただけるような、とにかく耳に入る、目に入るという形を広げていこうと思っております。

120秒版と書いてあるものですが、今の短時間版のほかにもう少し詳しい説明と使い方について簡単な操作方法が後ろに続く形で120秒でつくっております。

す。そういったものを例えば「はつらつ測定会」の待ち時間とかで御覧いただいたり、区の周知、PR活動の中で御覧いただくなど、そういったことで使いながら皆様に楽しんでいただければと考えております。

では、続きまして2「普及啓発」と書いてあるところですが、今年度末からすぐに始まるものと来年度からのものと混ざっているのですが、一応、現在やる予定ということで進めさせていただいているもののご紹介になります。

(1) から (3) まで、(1) スマホ貸与会、(2) 登録サポート会、(3) よろず相談会、とありますが、詳細については協議事項2でご説明させていただきたいと思います。

お配りしたチラシの中で、スマホ貸与会につきましては、水色の縦A4のチラシ、こちらでスマートフォンを持っていない方向けのサービスとして100台限定でお貸出しを2年間するという事業を併せて実施する予定です。

ただ、スマホを貸し出すという言葉だとちょっと語弊がありまして、やはり電話を使った特殊詐欺等が今すごく増えておりますので、貸し出す端末については、動画を見るためだけの機能に絞った限定的な機械をお貸しする形で予定しております。

これ自体は広報でも周知を始めさせていただいているのですが、ちょうど今日から、2月5日から2月21日までの間、申込受付ということで実際に今始まっているものでございます。

次の(2)「登録サポート会」ですが、こちらは次の協議事項2で説明させていただきたいと思います。

また、(3)「よろず相談会」につきましても協議事項2で詳しくご説明させていただきたいと思いますので、そちらでお願いいたします。

では、飛びまして(4)「認知症普及啓発講演会」ですが、こちらはチラシのカラー刷り、ピンク色の縦型のものになります。今回の「脳活ラボ」を始めるに当たって、認知症予防と介護予防を一体的に実施することで、より複合的に、効果的に進められるということで始めております。

先ほどの体験会の中で見ていただいた動画とかJ-MCIという認知機能測定があるのですけれども、そういったところは、研究いただいている一般社団法人MCIリング代表の朝田隆先生、筑波大学の先生でもいらっしゃいますが、専門的にされている方に関わっていただいて今回のシステムを進めております。

チラシにあります3月20日につきましては、朝田隆先生のところに通院されている俳優の山本學さんにもご一緒に足立区の学びピアで講演会をやっていただく予定でございます。

お集まりいただいた方には、講演を聞くだけではなくて、先ほどの脳活ラボの登録もご希望があれば実際にその場でやっていただこうと考えておりますので、そのような形でどんどん普及啓発を進めていきたいと考えております。

では、続きまして(5)「区のイベント出展」です。今年度末、3月29日と3月30日、舎人公園で実施されます千本桜まつり、こういったところ、区のイベントに我々は出展してPRを今までやってこなかったのですが、今後は広く脳活ラボを登録していただきたいと思っております。

で、こういったところに出展して拡大を図っていきたいと思います。

続きまして、(6)「区介護予防事業でのあだち脳活ラボ活用」した事業を始めていくということで、アとイ、2つございますが、アは先ほど体験いただいた「はつらつ測定会」でございます。イの「はつらつ教室」は、これまでも実施しているものではあるのですが、こちらの教室内のカリキュラムにあだち脳活ラボにある配信動画を活用した時間帯を設けようと思っております、現在調整を進めているところでございます。

続きまして、3「参加確認機能」とありますが、ちょっと読みづらいかもしれませんが、こちらは(1)「区介護予防事業参加時の参加確認」ということなので、先ほど脳活ラボの画面を御覧いただいたときに、二次元コードを読み取っていただいたと思うのですが、「はつらつ測定会」だけではなくて、そのほかの区の事業でもチェックインできるように進めていこうと思っております。

参加いただくとポイントが貯まっていき、ポイントを貯めることをきっかけに今まで参加していなかった方にもどんどん参加していただきたいと考えております、このような広げ方も準備しているところでございます。

次は(2)「通いの場での活用拡大」。そちらも脳活ラボの配信動画です。例えば、通いの場のリーダーの方にホストになっていただいて二次元コードを開いていただく仕組みがございます。そちらを開いてグループで同じ動画を見ることで、その場にいる人みなさんに同じくポイントが貯まっていく。それをきっかけとして、ポイントを貯めていきながら自分た

ちの活動につないでいくような効果を図っていきたいと思っております。

今日は委員の皆様にご体験していただいたのですが、そのほかにも4にあります区議会議員、あとは区内の高齢者団体の方々、現在は内山さんがいらっしゃるシルバー人材センター様にもご協力を依頼しているところでございますが、先ほどの脳活ラボの体験、はつらつ測定会を体験いただきたいと思いますと思っております。

以上となります。

○酒井部会長 今、報告いただきました事項についてご質問等、委員の皆様からお寄せいただきたいと思うのですが。

協議事項2以外ですね。

○河内係長 はい。

○酒井部会長 では、2まで進めることにしましょうか。

2の報告もお願いできますか。

○河内係長 ありがとうございます。

では、別紙2を御覧いただけますでしょうか。「令和7年度『あだち脳活ラボ』利用促進に向けた高齢者へのスマートフォンサポート事業の概要について」です。

あだち脳活ラボの促進を図るために、令和7年度に実施するスマートフォンのサポート事業の概要について報告させていただきます。

1「実施事業」ですが、こちらが先ほどの別紙1にありました(1)「登録サポート会」と(2)「スマホよろず相談」でございます。

まず、(1)「登録サポート会」があだち脳活ラボの利用に必要な、先ほど登録体験いただきましたが、LINEの友達登録がきっかけなので、LINE自体もまだ始めていない方、そうい

った方が興味があってやりたいという場合に、LINEアプリのインストール方法とか脳活ラボ自体の登録、プロフィール入力、コンテンツの利用等、そういったところも一緒にお教えできるようなスマホ講座を実施していこうと思っています。

続いて、(2)「スマホよろず相談」ですが、こちらはあだち脳活ラボを実際に登録していただいて、利用に生じるスマホに関する使い方とか、脳活ラボがきっかけではあるのですが、スマホの使い方全般の相談窓口として相談員が個別に対応をする相談会ということで開催を予定しています。

2にあります表が、今回の予定になります。

(1)「登録サポート会」につきましては、対面の集合型で予約制として始めます。

対象は、あだち脳活ラボをまだ登録していない方。登録サポート会なので登録前の方が対象でございます。

会場は、生涯学習センターを含めた区内の学習センター全館と、地域にセンターがない江南住区センター、合わせて区内全15か所を予定しています。毎月5か所やりますので、年60回ということで大変幅広く実施しようと思っています。

定員は20人程度で考えております。

(2)「スマホよろず相談」になりますが、対面型のものとコールセンターで電話だけで相談できる方法の2種類用意しています。対面型につきましては、あだち脳活ラボ登録済みの区内高齢者の方。コールセンターにつきましては、先ほど説明した貸与会で専用端末を借り受けされた方、また登録サポート会やよろず相

談会に参加した方であればお電話で対応することを考えております。

対面型のものに関しましては、区役所の高齢者地域包括ケア推進課がある北館の1階、ATM付近でテーブルを置いて受付していこうと思っています。

こちらは基本的に毎月5回。年58回程度になりますが実施予定しています。こちらも予約制となります。ですので、1日10人程度で、お1人30分間を予定しております。

右側のコールセンター型ですけれども、こちらはお電話になりますので、お時間だけ決めさせていただきまして、平日の10時から17時。土日祝日、年末年始除く形とさせていただいています。

サポート事業に連携していただく事業者でコールセンターを設けておりまして、令和7年4月1日から専用コールセンターを開始する予定となっております。

先ほどの貸与会で申し上げましたスマホをお持ちでない方につきましては、最大100名まで機能制限付スマホをお貸しすることになります。

サポート事業の今後の方針としましては、あだち脳活ラボを利用していただくため、リーフレットやあだち広報、介護保険だより、区のホームページ、SNS等、様々な媒体を使って周知を図っていきたいと思います。

また、高齢者の団体の皆様とも連携して、随時登録サポート会の開催に向けた調整も進めていきたいと思っています。

こちらが別紙でご用意しましたカラー刷りのものです。緑色の横書きのものが1枚あるかと思っています。右側に「あだち脳活ラボ」と書いてあります。こちらを半分折っていただくと冊子型になります。

今回は資料でA4サイズなのですが、A3サイズの大きいものでできています。

最初のページの左下にある二次元コードが脳活ラボの友達登録の二次元コードとなっています。開いていただくと、中に「メニュー」とか「効果」というところがございます。

左側を簡単に説明しますと、脳活ラボでできることが大きく4つありまして、区の事業を「イベント検索」で調べることができます。今まで新聞とかチラシでしか区の事業を周知できていなかったのですが、手元のスマートフォンでいつでも検索して調べられる機能になります。

「暮らしの脳トレ」は、1,000を超える脳トレ問題にチャレンジしていただけるので、1日1問やっても十分あるということになっています。

また、左下「動画視聴」は、先ほどこちらで映らせていただいたものではあるのですがけれども、400以上の豊富な、運動、口腔、栄養だけではなくて、芸術とか歌というような音楽を使った脳にも刺激があるような取組の動画を載せております。

最後に右下の「もの忘れチェック」が、J-MCIという朝田教授の研究いただくMCIリングで実施している13個の質問に答えるだけで簡単に認知症リスクを判定できるソフトとなります。

こういった形のものを普及啓発していきながら登録を増やして行って、どんどんみなさんの介護予防につなげていきたいと考えております。

私からは以上でございます。

○酒井部会長 ありがとうございます。

協議事項の1と2を合わせてご報告いただきました。これについて活発な意見

をよろしくお願いいたします。

○神家満係長 すみません。補足をよろしいでしょうか。

○酒井部会長 はい。

○神家満係長 今ご説明させていただきました「あだち脳活ラボ」のチラシなのですが、これはまだ作成途中のものです。ですので、電話番号ですとか会場の中身はまだ精査しているところですので、あくまで資料として今日御覧いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○酒井部会長 そうですね。例えば、「ポイントが貯まる」ところに「Coming Soon!」とあるのですが、実際に配布を始めるときは、ここにちゃんと景品が出ているのですね。

○神家満係長 そうですね。ポイント機能を使ってどういうものができるかというところを今詰めている段階ですので、実際には令和7年度中もこのシステムは2次開発、3次開発でどんどん進化していくのです。それができる度にリーフレットをどんどん更新していきたいと思いますので、第1段階でお出しできる情報は一部なのですが、そういった形でポイントは「Coming Soon!」という載せ方をさせていただいています。

○酒井部会長 これは重要そう。

○神家満係長 楽しみにしててください。

○酒井部会長 いかがでしょう。今日、測定会の絡みで脳活ラボの仕組や要因、その辺り全般についてのご意見。これでいいのか。

○賀川委員 医師会の賀川です。3月29日と3月30日の「千本桜まつり」の中で利用登録。これはテントを設営して

何人かいらっしゃって登録させてもらおうということでもよろしいですか。

○河内係長 そのように今、観光交流協会に申請を出しているところでございます。また、登録サポートだけではなくて、高齢者向けということなので、高齢者施策推進室全体、そのほか介護事業者さんと連携しながら一体的に進められたらと検討しているところでございます。

○賀川委員 医師会が毎回血糖測定をされていて、直接関係ございませんが、1,000人ぐらい血糖測定に来て、数値がゼロ目になったら景品が出たり、そういうのをやっていますけれども、場所が近ければ何か協力できるかもしれません。以上です。

○河内係長 ありがとうございます。

○広島委員 100名にスマホ貸出しとありますが、先ほど、動画を中心ということだったのですが、今回のLINEはできるものですか。

○河内係長 LINEの機能は使えるようにしていて、あだち脳活ラボを使っていただく条件で機能を制限した形で貸出しすることを対面型での貸与会にしているのですけれども、同意いただいた上で申請していただく流れになっています。

○神家満係長 自分のスマートフォンを解約して、2年間タダで使えるからこっちでいいじゃないかという方がいらっしゃるのですが、先ほど言ったとおり電話が使えなかったり、紛失されて位置情報を管理できるような端末をお貸ししていますので、そういうことを考えると、持っている方にとってメリットはないかと考えております。

○内山委員 通話ができなくてもLINE

Eだと通話できてしまいますよね。

○神家満係長 確かにLINE同士の通話はできます。ただ、お友達同士の通話なので、電話の機能を持っていると、ランダムで打った電話番号でつながってしまうのです。適当に090何番でかかってしまうので、そこは特殊詐欺につながったりショートメッセージが届いてしまったり、そういうリスクがあるので電話の機能を削除し今に至っています。

○内山委員 スマホは電話機能と全く一緒のような気がしているのです。新たに全然違う友達とLINE交換できてしまうでしょう。

○神家満係長 今お貸出しする端末のLINEについては、一般に公開しない設定をした上でお渡しするので、ご自身でつながらなければ知らない人からお友達申請とか来ないことになっています。

○内山委員 自分からはできちゃうの。

○神家満係長 自分で探せばできます。

○酒井部会長 やって見ないと分からないですね。

では、小浦委員。

○小浦委員 質問です。導入の目的は、介護予防と認知症予防だと思うのですが、効果の測定はどのようにされるのでしたっけ。

○河内係長 脳活ラボに登録いただいて、先ほど参加いただいた二次元コードを読むとか動画を見るという活動をしますと、システムでは区に利用者さんの実績が自動的に収集できるようになっています。

個人情報は何十桁という番号に置き換えて誰が見ても分からないようにしているのですけれども、一応、内部ではどなたがどんな動画をたくさん見たとかどんな事業に参加したか、そういったところ

が追えるようになります。ただ追うだけではなくて、長く時間がかかるかもしれませんが、例えば、こういう動画をたくさん見た方は転びにくいとか、運動をたくさんされている方は介護認定に進まないとか、そういったところに活用できればということは理想として今考えているところでございます。

○小浦委員 ありがとうございます。

○佐藤委員 足立区歯科医師会の佐藤ですが、そもそも脳活ラボの建てつけを小浦さんもおっしゃっていましたが、高齢者向けの足立区と高齢者がつながるメインツールという形で考えている認識で間違っていないですか。

○河内係長 はい。

○佐藤委員 その中でイベントのところを見ると、どこまでのイベントを掲載する予定。プルダウンメニューからイベントを押したときに、高齢者はどういうイベントまで。

○河内係長 まず、私たちの所属で実施するので、区の介護予防事業はまず検索できるようにと思っています。ただ、将来的には、区のほかの所管の情報とかも連携できるようになっていくといいとは思っておりますが、進み具合によってそこは検討したいと思います。

○佐藤委員 一般の利用者の方は、もちろん事情は分かるのですが、結局区の縦割りでこの情報だけ見ると見られなくて、そうすると、結局これを見て知らないものがあつたらもう見ないというようになってしまって、例えば、足立区に住んでいる高齢者の方が足立区の事業で何かあるかなとこれを調べれば分かるとなれば利用の頻度が増すと思うのですが、それが大したことではないとか自

分の知りたいことがないとかなくなってしまふと、もうそこでここは違う、ということがあるので、そこはある程度、いずれと言わず、ただリンクを貼ればいだけだと個人的には思うので、ホームページに書いている情報とかはここから全部見られるようにする、分かりやすく見られるようにしたほうがいいのかと思います。

○河内係長 ありがとうございます。

○小浦委員 理想的だと思うのですが、サロンとか自主グループもお近くの実施日とかそこまでリンクできると、よりいいのではないかと先生のお話を聞いて思いました。理想論だと思いますが。

○酒井部会長 私からも理想論ですが、今お話を聞いて、確かにイベント検索して関連部署のものしか出てこない、あとはないなという感じになってしまって検索という感覚があまりないのかなと。

イベント検索は当然誘因の1つでもあると思うので、例えば、学習施設、図書館事業、体育施設の中でいろいろなイベントがあるのです。ですから、学習施設とか体育施設の事業者のイベント情報にリンクできるような、つながっていけるようなものがあれば、足立区のあらゆる指定管理業者の施設のイベントが分かるようになると事業者も助かるでしょうし、見るかなと思うのです。

例えば、学習施設はバラバラな状態になっていて、広報が一本化していないのです。でも、もしこれが使えてイベント情報がググれるのであれば、これを見ようかなと思えます。当然、ここから脳活ラボの中身に全員が全員行くわけじゃないと思いますが、誘因の1つなので、その辺りはどこまでのものを検索対象にす

るかは別として、ちょっと工夫を広げて  
もいいのかなどという気がします。

○河内係長 ありがとうございます。

○佐藤委員 次から次へと申しわけない  
です。もちろん介護予防をするためのと  
いうことは分かるのですが、その先には  
やはり介護につながるわけなので、そこ  
のぎりぎりの人が介護の者もここにアク  
セスすれば包括に橋渡しできるところが  
ないと、もちろん分かります、区で予防  
してそういう人を減らそうという意図は  
よく分かるのですが、利用者とし  
てはそのときを経てお世話になっていく  
と思うので、その道筋をある程度してい  
かないと、もう私には関係ないものみた  
いになってしまうと、これだけ費用をか  
けてもったいないものになってしまうよ  
うにしたほうがいいのではないかと  
思いました。

○河内係長 ありがとうございます。

○酒井部会長 ほか、いかがでしょうか。

○神家満係長 今の委員からのご指摘あ  
りありがとうございます。

委員のイメージされているものの中の  
ほんの一部しかないと思うのですけれど  
も、現時点では認知機能測定で認知機能  
低下の疑いがある方については、結果に  
応じてプッシュ通知で認知症検診事業と  
か医療機関、または地域包括支援センタ  
ーのご案内を個別に送る、そういうとこ  
ろにつなぐところも機能として考えてお  
りますので、そういったものを一連とし  
て機能拡張して、ゆくゆくは介護のとこ  
ろともつなげられたらと思いますので、  
ぜひ参考にさせていただきます。

○内山委員 シルバーの内山です。

「スマホよろず相談」ですが、足立区で  
やるのは初めのことなのですか。もとも

とやっていたのですか。

○神家満係長 例えば、スマートフォンの  
P a y P a yとかあのようなキャンペ  
ーンが出たときに臨時で、スポットで相  
談コーナーを置いたり、あとは学習セン  
ターの講座の1つとしてやったり、そう  
いうものはありました。

ただ、今回の「あだち脳活ラボ」に関連  
してスマホに関すること、何でも困った  
ことを聞いてもいいですよ、という事業  
は今回初めてです。

○内山委員 なぜそういうことを聞いた  
かということ、単なるスマホ相談だと東京  
都でやっていますよね。

○神家満係長 やっていますね。

○内山委員 最近どんどん人が来なくて、  
この前は会場でプレミアか何かでやった  
ときにも1人しか来なかったという現状  
なのです。ですから、今回人に来てもら  
うためのそれだけの人集めをするのは、  
かなりインパクトがないと、単なるスマ  
ホ相談だと来ないと思うのです。来ない  
というか、だんだんもう必要なくなっ  
てきたかもしれません。ちょっと分かり  
ませんが。

ですから、これだけやるには相当な費  
用もかかるでしょうし、それだけの効果  
が出せるような形の最初のアプローチが  
必要かなと感じております。

○神家満係長 ありがとうございます。

○山ノ内委員 POSネットの山ノ内  
です。

今の関連しているのですが、登録サポ  
ート会もやはり来てもらうという感じな  
のです。やはり地域学習センターでしか  
というのはどうなのかなと思って。難し  
いかもしれないですが、地域学習センタ  
ーに来ている人達はもともと関心がある

人が来ているので、そういう人たちではない人にもというのであれば、やはり難しいかもしれないですが、商業施設とかそういうところに出向いて行って登録サポートしないと、多分増やせないと思います。住区センターとか学習センターは、本当に興味ある人しか行かない。だから増やせるかなという疑問と、あと、動画を見るかなというのが正直思います。コンテンツをいっぱいつくっても見るかなと。

○小浦委員 小さいですものね。

○山ノ内委員 小さいしね。例えば、測定した結果とどういう関連があるのか、この動画を見てください、というものにつながっているならまだいいですが、自分で探して、動画を果たして見るかなと。たくさんの中からどれを選ぶかというのは、やはりしんどいなと思います。

どうしても「見てください」「来てください」というのは逃げてしまうよね。逆にどうやったら広められるかと、せっかくつくるのでそういうところにも目を向けないと、多分増えないのではないかという不安はどうしてもあります。

○神家満係長 登録を増やす1つの要因として「登録サポート会」を考えているのですけれども、確かに待ちの姿勢だと多分と来ない、なかなか難しいと思うのですけれども、商業施設ではないのですが、違う目的で人が集まる場に我々が出向いて、登録のPRとかお手伝いをするという意味で、今度の舎人公園の「千本桜まつり」とか、あとは9月の認知症月間でも商業施設でやったりしていますので、そういうところは今までやってこなかったという意味でも力を入れていかなければなど考えています。

○山ノ内委員 広めるにはそういうところがいいかなと思います。

○神家満係長 ありがとうございます。

○酒井部会長 ほか、いかがですか。

○佐藤委員 歯科医師会の佐藤です。

動画視聴の動画は、誰がつくっているのですか。

○河内係長 先ほどご説明の中でご紹介した筑波大の朝田教授が代表を務めておりますMC Iリングでつくられております。エビデンスとしては、専門家の方が動画の中にそれぞれ出てくるので、しっかりした内容ではあると思います。

○佐藤委員 その中に口腔ケアはありますか。

○河内係長 ございます。

○佐藤委員 あと、その内容的なところでいうと、先ほど山ノ内さんもおっしゃっていましたが、やはり、ただぱっと見て自分で見るといってもなかなか見られないと思って、測定して足りないもの、例えば運動してここの部分を筋トレしたいと。あなたは上半身の筋力が足りなくなったら、そのトレーニングの動画を見ようと思うのです。そういう位置づけがないと、ただ何となくざっと見てくださいとなると、やはり興味が湧かないと思いました。

○神家満係長 やはりおすすめプログラムとして来るものを見るだけではなくて、自分でも選べることが大事ということですね。

○佐藤委員 そうですね。ただ、それがおすすめもピンポイントで合っていればいいのですが、ほかのシステムでも、例えばYouTubeでもあなたへのおすすめというのが全然おすすめではなかったりということもあると思うので、なか

なか難しいのかなと思うのですが。

○神家満係長 難しいですね。

○酒井部会長 別紙2ですが、(1)「登録サポート会」というのがあって、もう一つは(2)「スマホよろず相談」があるのですね。

どう違うのかと思うと、登録サポート会は登録していない区内高齢者、これからということですね。スマホよろず相談はもう登録している人、登録済みの人の教えてほしいという悩み相談になっているのですけれども、このリーフレットを見て、せっかく区役所に用事があって来た方が、ふっと登録するチャンスという部分がないのです。既に登録した人がここで相談できますが、しかも予約制ですけれども、やはり学習センターへ行ってくださいというのでは、まず行かないと思うのです。ほかの用事で来た方を取り込むもの、先ほどもスーパーとか何でもありましたけれども、そういうところで登録しませんかとやらない限り、登録はまず増えないのかなと。

登録会をやっても最初来た人は1回でも来ないですから、最後は数名しか来ないというのは当然だと思うのです。だから、区内全15か所で毎月云々とありますけれども、それは逆にスマホよろず相談を対象に登録サポートも含めてやらないと厳しいなという気がしました。

そのときは当然人数制限などなく、いつでも登録サポートできる体制にしないと難しいのではないのでしょうか。別の用事で来た人がやってみようと思ったときがチャンスなのです。それをつかめないと思います。逆に言うと、やろうと思っている人は認知症にならなかつたり抑えられる人なのです。スマホを使ってやろ

うと思う人は、多分かなり大丈夫な方なのです。隙を見せて捕まった人を逃がさないようにするには、やはり今までそういうことを考えていなかった人がふっと、「区役所でやってるじゃん」と、そういうものでつかんでいくしかないと思います。

それから、先ほどのいろいろなイベント情報に関係する部分なのですけれども、この脳活ラボを含めてスマホを使ってというものをどう位置づけるかなのですが、最終的に脳活ラボを使っていただいて継続的に利用していただくことではつらつ健康でいると、それが一番ベストだと思うのですけれども、逆に言うと、今回のスキームの中でスマホを利用した脳活ラボの一連のものをつくって、その中にイベント情報だけでも使いたいと思って入っていただいて、それが1つのはつらつ元気な高齢者の取っかかりにもなるわけですから、そういった意味でもっと、最終的に脳活ラボに行くとしても入口を狭めないで、そっちしかないよではなく、する工夫があるといいのかなと。

このシステムの評価を脳活ラボに至って継続した人が何人で評価されるのではなくて、このシステムの中にスマホを利用してこういうものがあるということに参加してくれた人がどれだけいるかということが1つの成果だと思うのです。ですから、そういった意味で「登録サポート会」「スマホよろず相談」の位置づけとか配分とか全面的に変えないと、ただ開催して何名参加、年間で何名参加しましたというだけで終わってしまうのが見えると思います。

全体の協議会でも出てきているのが、こういうシステムはすごくすばらしいけ

れども、そう簡単に、スマホだからといって、LINEだからといってやらないよと、突っ込んでいかないとつかめないという話なのです。現場に行かないとつかめないという話があったのですが、今の「登録サポート会」「スマホよろず相談」の在り方は、つかめないと思います。私の独断の話ですみません。つかめないというのが感覚なので、このシステムなり事業を成功させるためには、入口の部分で大きく変革が必要な気がします。

すみません、独断で決めたような発言をしてしまっているのですが、皆さんよろしくお願いいたします。異論がある方は言っていただいて。そんなことない、でもいいのですが。

この「登録サポート会」「スマホよろず相談」で結構壁があるのです。前の委員会で、キャラバンでどんと体力測定会をやらないと駄目ですと、来てくださいと言ったらいいのですよ、来る人ですから。逆に言うと、歯科医院とか病院とかスーパー、そういうところで時間を余している、待っている方をキャッチして体力測定をすばっとやっちゃう。もしくは歯科で治療を終わった人がそこでやるとか、そういうようなキャラバンで動かさないといけないと思うのです。

キャラバンを使って移動すれば、その人たちは慣れているので、その人たちが回るので、効率的に実施していけるのではないかと思うのです。待ちではちょっと人材がもったいない、って思ってしまっ

て。今まで事務局でこういうの重ねていただいている中で、何か大変な面倒くさい話を部会長がして申しわけないのですけれども、成功させたいので、成功させる

ためにはもっともつつかみに行く相談会、サポート会かなと。

一般的ないろいろな事業をやるときのサポート会とか呼びかけと同じなので、肉薄していく形でやれないかなと。体力測定器を全部持ってキャラバンで。

○内山委員 シルバーの関係でお話すると、やはりいろいろと安全第一とか健康第一ということでやっているのですが、講習会とか研修会とか年に何回もやっているのですが、来る人はいつも一緒なのです。結局そういう人たちは健康であるかもしれませんが怪我とかもしないのですが、事故を起こすということが結構あって、そういう人たちはやはりそういうところに来ない人なのですよね。来る方はそれだけの気持ちもあるし、知識も増えてくるのでよろしいのですけれども、来ない人が事故を起こしたりする。本人にとってもよくないことですし、そういう意味でも先ほどの前回の話のキャラバンじゃないですが、来ない人にどうやって興味を持ってもらって参加していただくか、そういうことがやはり大事かなと。

我々もそういう立場で来てもらうためにどうしたらいいか知恵を出すのですけれども、なかなかそうはいかないですね。そういう意味では本当に前回のタオルのですか。「ばく増し」のでしたっけ、粗品じゃないですが何かそういうことで喜んでもらうとかして、そこで参加してもらうような工夫が必要なのかなと。今知恵があるわけではないですが、何か工夫をしたいと思っています。

○山ノ内委員 登録サポート会の会場で、例えば、団地が多いですから、住区センターが足立区内でどれくらいあるか、私

は確認が取れていませんが、意外と団地も竹の塚を考えましても、大体住区センターを持っています。そうしますと、その自治会の会長、知っている会長もおりますけれども、会長あるいは自治会が率先して会場に集めるような。そうなりますと、区内全15か所、江南住区センター、これは江南のところだけなのでしょう。

○神家満係長 そうですね。登録サポート会の会場を選ぶときに、区内で偏りがあるといけないと思いました。どうしても地域学習センターだけですと、なかなか距離が遠くなる地域がありまして、そこが江南地区だったのです。なので、そこをカバーするという意味で、ここでは住区センターを追加しました。

○山ノ内委員 昔、住区センターで講演をしたことがあるのですが、でもやっぱり住区センターは多いですね。

○神家満係長 多いですね。

○山ノ内委員 月5か所、年60か所、掛け算でこれぐらい集まるかどうか別としまして、1回20人。住区センターは意外と高齢者の方々が来て、いつも来ている人は来ている人かもしれませんが、いろいろ囲碁や将棋をやったり、ほかにもイベントもしていますので、何か手っ取り早いかなと感じるのですが。

○神家満係長 そうですね。いつも来る方をつかまえて。

○山ノ内委員 それでもいいのです。あるいは、そこに会長、副会長がいますので、集まれと言うと意外と高齢者の方々が集まりますので。それで……ただけるか。いかがでしょうか。

○酒井部会長 学習センターに集まれというより、もっと違った目的で集まる場

所に集まれと言うと集まりやすいのかなという気はしますね。

○山ノ内委員 住区センターは本当に多いのですよ。

○酒井部会長 多いですね。

○神家満係長 今回の資料で「登録サポート会」「スマホよろず相談」、こういう載せ方なので、登録できるだけですよと誤解を与えてしまったかもしれませんが、我々としてもチャレンジであり挑戦なので、本当に攻めに行くつもりでおります。もちろん登録にも臨時で出向いて行きまじ、事業者とも話をしているのですけれども、例えば、地域学習センターにいろいろな目的でいらっしゃる、図書館もありますし体育館もありますし、そういった方が何かやっているときにのぞいたときにも、予約していないけど最終的には会場に空きがあればご案内してくださいますので、そこはやりますと言ってくれていますので、違う目的で来た方を機会を逃さずつかまえていくところは、これから力を入れてやっていきたいと思っています。

○酒井部会長 では、協議事項1、2、ほか、いかがでしょうか。

それでは、まず協議事項については終わりにして、また最後にお話を伺うことがあるかと思えます。

では、報告事項に入っていきたいと思えます。

報告事項の1つ目になります。

(1)「令和7年度介護予防事業の見直しの結果について」、報告をお願いしたいと思います。

○河内係長 介護予防担当の河内より説明させていただきます。

こちらは令和7年度介護予防事業の見

直しの案とさせていただきます。予算の都合上、決定が、まだ予算案が出ていないわけなので、現状の考えとしての案という書き方にさせていただきます。

今回ははつらつ高齢者部会が始まった当初からの案件として出させていただきますものの現時点で方向性が固まった進捗をご報告させていただきます。

項番1にあります対象事業5つです。こちらは前回もご報告させていただいておりますが、この5つについて下の表で説明させていただきたいと思っております。

まず(1)「高齢者体力測定会」、こちらは先ほど委員の方に参加いただいた、今までですと、握力、立ち上がり機能とか足腰の機能を中心としていたものに新たに認知機能測定を加えた測定会に変更いたします。

右側に「変更後(R7年度～)」とありますけれども、説明さしあげたとおり、申込不要にして、こちらに関してはいつでも来ていつでも測れるというような実施方法に見直そうと思っております。

また、開催規模は先ほど説明さしあげたサポート会に似ているのですが、⑤区内地域学習センター及び生涯学習センターを合わせた14か所で毎月開催ということで、こちらは待ちではあるのですが、いつでも来られるというところをそのほかのPR活動でどんどん周知していこうと思っております。

では、続きまして(2)「はつらつ教室(室内型)」になります。こちらは有酸素、筋力、栄養、口腔ケアの4種をカリキュラムを分けて、学べたら自宅で取り組めるような指導ということで実施していました。

こちらに関しましては、課題にありま

したところが、先着順による事前申込とか、自宅で行うための資料がご用意できていなかった部分もあったり、最初の目的であった学んだことを持って帰ってもらうところでどのようにつないでいくかを考えて見直しました。

変更後につきましては、「公平な利用機会の確保」と書いてありますけれども、はつらつ教室の課題としては、同じ方の参加が目立っていたというのがありますが、いろいろヒアリングで学習センターを回っていたところ、同じ方の参加の中でもキャンセル待ちになってしまって、参加率の差がある方も中にはいらっしゃるということで、新規の方を増やしたいというのでも1つなのですが、同じリピーターの方でも公平に参加してもらうようにするには、抽選という形の方法を取り入れようと考えております。

先ほどの別紙1でご説明したとおり、こちらの教室の中で脳活ラボの配信動画も実際に体験していただく場を設けようと思っております。

③の回数につきましては、今まで月2回の12か月、24回制という会場の規模でやっていたところですが、この定員に対して実績は人数の参加率が少ない部分もありましたので、実態に即した回数に合わせることで、あとは1回で全部学んで持ち帰れる内容に直させていただきますと思っております、年8回開かせていただくところでございます。

では、裏面になりますが(3)「はじめてのフレイル予防教室」です。こちらは、大きな変更というわけではなく、少し夏場の暑い時期にかかる期間の回数を減らす形で見直させていただくような変更となります。

真ん中の「変更前・課題」のところにあります「①全12回の連続講座」で今実施しております、大体3、4か月かかる教室になっています。こちらは上半期と下半期と2期制で開催しているのですが、上半期の最終が夏場にかかってしまう。また、下半期の始まりも真夏にかかってしまうということで、その部分だけを少し削る形で12回制を10回に見直すようにしたいと思います。時間が75分でやっていたものを90分に増やす形にはなりますが、トータルの時間数は以前と変わらないような内容で変更する形になります。

続きまして(4)と(5)です。(4)「ZOOMでオンライン体操教室」、(5)「あだちスマホ教室」こちらがコロナ禍があって令和5年度から実施しているものではあるのですが、こちらについてはあだち脳活ラボが始まるに当たってオンラインの取組に移行する形で今年度で終了しようと思っております。

どうしてもZOOMが難しいというお声をたくさん頂いていたことと「あだちスマホ教室」も登録サポート会等に置き換えさせていただく形で引き続き実施していきたいと考えております。

最後、【終了】とあります「あだち・らくらく体操」、こちらにつきましては、以前からご報告さしあげていたとおり、今年度をもちまして終了として進めているところでございます。

J:COMでの放送ということなのですが、視聴率が集計できないということで、効果測定が取れないことが課題でありました。

「あだち脳活ラボ」ですと参加者の実績が把握できるというのが特徴で、そ

らに移行していきますし、あだち・らくらく体操は区のホームページでも実際に今放送しておりますので、そういったところを周知していきたいと考えております。

3「今後の方針」としましては、(1)「既存参加者がスムーズに移行できるよう、区ホームページ等で説明していく。」と書いてありますが、実際、現場に説明に行かなければいけないものは、我々が足を運んで説明しに行きたいと思っております。

また、見直しによる効果につきましては、検証した上で今後の事業に展開していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

私からは以上です。

○酒井部会長 ありがとうございます。

今のご報告について、ご意見等頂ければと思います。

○小浦委員 栄養士会の小浦です。

(2)「はつらつ教室(室内型)」の件で、今ご報告の内容になかったのですが伺いたいのですが、管理栄養士ははつらつ教室で栄養講座を2か月に1回担当してきました。センターからもう今年度で終了だという連絡を受けているのですが、それは栄養士会内で共有できていなかったら申しわけないのでございますが、プログラム変更については、栄養士会には連絡いただいていたことなのではないでしょうか。

○河内係長 こちらについては、学習センターに随意契約で実施させていただいているところなのですが、まず実施の可能性とか、どのようにできるかということを実際に説明に回らせていただいていたところでございます。栄養士会さんのほうに直接ご相談、連絡は取れていない

ところでした。

センターさんを通じて説明した上で、今、講師依頼も学習センターからお願いしているところではあるのですが、ちょっとこちらからというのは、私がセンターにお願いしてしまっていた部分があるかと思います。すみません、直接こちらかのご相談はできていないです。

○小浦委員 来年度、講師を派遣しての栄養講座はもうしないという決定事項でいいのですか。

○河内係長 そのように今進めさせていただけいてるところではあります。

○小浦委員 まだ決定ではない。

○河内係長 それは、決定で進めているところ。

○小浦委員 決定事項なのですか。

○河内係長 はい。

○小浦委員 前回のはつらつ部会での話し合い、ご報告だと、プログラムの変更とか講義の回数の縮小とかそういう話し合いだったと思うのですが、そのあと中止が決定したということですか。

○河内係長 そうですね。課内で話し合いをさせていただいたところでしかないのですけれども、今回、脳活ラボを進めていきたいところもあって、動画の配信に置き換えさせていただこうということで見直させていただいたところがございます。

○小浦委員 承知しました。栄養講座の動画がある。脳活ラボの中に。

○河内係長 はい。

○小浦委員 そうなんですね。はつらつ教室は介護予防の運動、口腔、栄養、社会とのつながり、その3本柱が必要なのだと、どれが1本欠けても介護予防はなかなか進まないということをお話をき

たところなので、体操が人気、メインではあったのですけれども、やはりそのテーマはずらさずに続けてもらいたいなど。

そんな中で、毎回栄養講義が同じ話で同じテキストで、前回聞いたからもういいわ、とって参加がなかなか促せなかったりして、そんな中でも各講師が毎回いろいろな話題提供を考えて参加を促すような努力を管理栄養士たちが続けてきましたので、それをセンターから直接来年度から終わりですと連絡を受けたのはちょっと残念な感じが拭えないというか、連絡、報告の順番を考えてほしかったなと感じています。

○河内係長 そうですね。事前の連絡とか話し合いが、ご相談できていなくて申しわけございませんでした。

委員がおっしゃるとおり、口腔、栄養の必要性とか、そういったところが教室内でなくなるところではあるのですけれども、実際の対面型ではない形にさせていただこうとは思っているところです。

○小浦委員 そうですね。やはりやり方などを講義の場でレクチャーをして、実際自宅で何をつくったらいい、どうしたらいいという部分を伴奏してほしいのですよね、皆さん。そういうのを結構大事にしてきたので、そういうものが動画配信でかなうのかという不安と、ご高齢の皆さんはやはり不安で寂しくて、自信をもらいたい方も多い中で、先ほどの脳活ラボの登録会とか自分が求めている動画がなかなか出てこないだとか、そういうところでもあるのですけれども。あまりデジタル化してしまうと見放されてしまったような、やれる人だけやってねみたいな区からの一方的な配信みたいに捉え

られてしまうと、「よし、介護予防がんばろう」みたいな生き生きした感じが持ちにくいのではないかなと心配になります。

○河内係長 今、センターを回らせていただいているところでもあるのですが、4月以降も現場のほうには足を運んで説明していこうと思っているところであります。当然、参加者さんを見放すことにはないですし、来ていただいた方にいかにどれだけ自分の生活の中に持ち帰ってもらえるかお話ししてほしいということはお伝えしているところと、あとは新しい参加者さん、今まで来なかった方々もどんどん参加していただきたいのは以前からの願いではあるので、そういったところはうまく混ざり合うような形でちゃんと説明の場を設けていきながらやっていきたいと思っています。

○小浦委員 そうですね。配信される動画も定期配信されるのかとか、これを学習したら次はこれというようなカリキュラムがあるのかとか、そういう辺りの、黒川さんがいらっしゃるので、身になるような、見てよかったなど、やってみようかなと思えるようなカリキュラムが配信されるといいなと思います。

○河内係長 そうですね。先ほど見ていただいたパッケージのもの等ありますが、ああいったものもちゃんとどれが効果的かのご意見を頂いたりしながら足立区で進められるものを決めていけたらと思います。ありがとうございます。

○半貫室長 高齢者施策推進室長の半貫です。

今まで非常にご協力いただいておりますのに、きちんとした形でお伝えできなかったことは、すみません、ちょっと後になってこの場になってしましますが、

お詫びをさせていただきたいと思います。申しわけありませんでした。

○佐藤委員 ちょっと全体の中で時間もあれなので聞きたいと思ったのですが、今ちょっとその話から受けて、結構建付けがそういう感じでアウトソーシングするものは全く中身が伝わってこないのですよね。今回も朝田先生が監修したのはそうかもしれないけれど、その人は、例えば、足立医師会の内容を詰めているわけではないと思いますし、口腔ケアがありますと言われても何の話をしているかわからないし、その人が動画を見て、利用者が足立区の歯科医院に来ました、あの動画を見ました、何ですか、となると、何のためにこっちは地域に貢献してやっているのかなというところがすごく感じられるのです。

実際にはつらつ教室をやっているのは、僕の認識だと、歯科医師会にはオファーなくて東京都の歯科衛生士会でやっているのですよね。経緯が僕は分からないので、歯科医師会が断ったとかあるかもしれないのですけれども、結局、現状としては、こういうことがやられているのは歯科医師会も知らない。この後のフレイル予防教室の口腔に関しても歯科医師会はタッチしていない。

内容で言うと、区が幾ら参加してくれとって参加しても歯科医師会の会員も内容が分からないし、そういうところで受診されても、足立区民のためになると、そのつながりはもうちょっと有機的にしないと何のための地域医療なのかなと常々感じているところで、そこは申しわけないですけれども、他の自治体とかで、もちろんもっとうまくいっていないところもたくさんあると思うのですが、

いっているところだと、そういうところはすごく連携が密で、ひいてはそれが区民のためになっているところが感じられるので、先ほど小浦さんがおっしゃったとおりで、動画配信とかそういうところも大事なんだけど、やはり利用者が、自分たちが足立区に住んでいて利用してよかったというのを区の施設、医療機関、そういうもの全てがつながるところを念頭に考えてほしいと思います。

○河内係長 ありがとうございます。

○酒井部会長 よろしいですか。

今ご意見を聞いていて、令和7年度介護予防事業の見直しとあるのですが、当然システムを変えていこうということで、様々な事業について全般的に見直すという話になったと思っています。効果測定できないものだからそれはやめて脳活ラボにしようと、これは効果測定できるという前提で進めているのだと思うのです。

ただ、はつらつ教室は、やはり現場でやらなくてはいけないのと同じように、栄養、口腔ケアもの自体は動画配信とかでは代替できないものがあると思うのです。ですから、見直し(案)で事実上確定したのかもしれないですけども、生の講義の中でしか選べないものがやはりあるので、見直し(案)を考える場合には、根幹部分の人とのつながりのある講座は残していくことをしなければ本末転倒かなと。

部会長は本当は公平でなくてはいけないのですが、見直しを考えるときのスタンスが外注と動画依存では真逆の結果を導く可能性があるなど。地域包括ケアですから、地域の協力してくれる方、組織、機関を使わないで動画配信でというのは地域包括ケアにならないと考えます。

ほか、意見いかがでしょうか。

では、次に行きましょうか。また戻って話はできると思いますので。

それでは、報告事項の2つ目、(2)「令和6年度『ぱく増し』事業の進捗状況について」をお願いしたいと思います。

○黒川係長 高齢者栄養施策推進担当、黒川です。

「ぱく増し」ですけれども、2月が強化月間ということで今真っ最中でございます。まだ途中のものが多いですが、進捗状況をお伝えさせていただければと思います。

項番1番、月間の進捗状況というところの(1)「『アンケートに答えてぱく増し商品を当てよう!』キャンペーン」。

1月中旬からチラシやポスターなどを包括や、スーパーはこれからになる部分があるかと思うのですが、区内施設など経由してチラシなどの配布が始まったところでございます。

お配りしている資料、クリップ留めの一番上にあります派手なチラシです。キャンペーン専用はがき付応募用紙となっております。

こちらは昨年度、オンライン、はがきを合わせまして3,173人の方にアンケートにお答えいただき、ご応募いただいたものなのですけれども、昨日現在でオンラインで1,500、はがきで500、あわせて2,000の応募が既に来ています。昨年度より多くなりそうな状況でございます。

昨年度と違うところなのですけども、あだち配食サービス協力店とか大塚食品さんがキャンペーンのプレゼントにぜひ出したいということで提供希望を出してくださいますと、配食のお弁当5食無料

券10名様、あとは大塚食品さんから豆乳とレトルトカレーなのですが、20名様分提供していただけるということで、合わせて50名様にプレゼントが用意できる運びとなりました。

こちらは3月13日までが応募期間となっております。地域包括ケアシステム推進会議がちょうど3月13日に予定されています。そこには集計結果が間に合わないのですけれども、来年度のケアシステム推進会議等でその結果をお伝えできればと思っております。

スーパー、コンビニですけれども、スーパーは昨年度からイトーヨーカドーさん、ヨークさん、ベルクスさんが協力いただいているのですが、今年度はさらにセブン-イレブンさんから、139店舗となっているのですけれども、セブン-イレブンさんが数を間違えましたということで140店舗ご協力いただけることになりまして、小さめののぼりですが2本ずつ店舗に来週ぐらいから置いていただける運びとなっております。あと、千住にありますスーパーTANAKAさんにも協力いただくということで店舗が増えた形となっております。

セブン-イレブンさんですけれども、2月中旬にカップ德利という商品、いろいろな種類のものがあるのですが、そちらを2品買いますと、サラダチキンバーをプレゼントしてくださる企画をセブンのほうで考えて実施してくださるということで2月17日からスタートする予定なのですけれども、実施してくださるということになっております。

(3)「あだち広報、区施設及び庁内施設発信ミニコミ紙等によるPR」です。1月25日号のあだち広報、今日お配り

している資料にもおつけさせていただいているのですが、皆様、御覧いただいていますでしょうか。表紙と裏面の両方に「ぱく増し」を載せていただけることができました。高齢者の方からかなり反応があるところでございます。

また、今日お配りしている資料で、区内に地域学習センター、生涯学習センターが14か所あるのですけれども、全部の地域学習センターさんでそれぞれのミニコミ紙に「ぱく増し」を載せてくださいました。

興本地域学習センターの招き猫が表紙のもの、冊子になっているものは皆さんお手元にありますでしょうか。1ページを開けていただきますと、「ぱく増し」の説明とかキャンペーンのことを載せてくださっています。

もう一冊、「よいしょ」という伊興地域学習センターのものですが、5ページを見ていただきますと「ぱく増し」の記事が載ってまして、さらに「ぱく増し」の講座情報が出ているのですけれども、伊興地域学習センターで「ぱく増し」の料理講座などを企画して下さってまして、なんとその1つは、小浦委員が講師としてやってくださっているのですけれども、多くの地域学習センターが記事に載せてくれているだけではなくて、「ぱく増し」にちなんだ講座を開いてくださったり、関連の本を掲載して下さったりとかなりご協力いただいている状況になります。

ほかの地域学習センターのものも本日お持ちしましたので、話を聞きながら申しわけないですが、置いておきますので最後にちらっと見ていただければと思います。

庁内連携などもかなり進んできておりまして、図書館でも「ぱく増し」コーナーを2月に設置して下さっていきまして、関連本やのぼりなど置いたり、全15か所の図書館で実施して下さっている状況でございます。

(4)「ぱく増し普及啓発品」ということで、今この期間、3月13日まで地域包括支援センターに行くだけで、今年度つくっている「ぱく増しハンドタオル」をプレゼントしまして、「ぱく増し」ってどういうことなのか包括の方が伝えつつ、ちゃんと家でも「ぱく増しやってみてください」とお伝えしながらこちらをお配りすることをやらせていただいております。

こちらをちょっと回覧していただければと思います。

委員の皆様には、今日ではなく、3月13日の地域包括ケアシステム推進会議で全員の委員さんに配付させていただければと思っております。

項番2、「普及啓発品『てぬぐい』を活用したレジスタンス運動の開発」で、前回の部会で山ノ内先生に実演していただいた手ぬぐい体操なのですが、今日お配りしている資料の中に入っているのですが、このような立派な形で完成いたしました。

別紙5の説明にも入れさせていただいているのですが、住区センターで「リハビリのプロと学ぶ筋肉維持講座」というものを今年度から実施しているのですが、そちらで手ぬぐい体操を何回か実施いたしたところでございます。

大変好評いただいておりますので、そこで手ぬぐいも配布しているのですが、手ぬぐいも資料も足りなくなるよう

な状態です。実際に受けた方は、さらにそれを広めたいと言ってくださる方が多くて、今後手ぬぐいが足りなくなりそうな状況なのですが、大変好評いただいております。

印刷物に関しましては、本当にできてほやほやなのですが、山ノ内先生何かありましたら、あとでコメント頂ければと思います。

○山ノ内委員 きれいなものをつくっていただいております。モデルさんが同じ課の中の人を使っていたてありがとうございます。

○酒井部会長 もう一つ、次の(3)「令和6年度『食べてフレイル予防』事業の進捗状況について」、これもあわせてお願いしたいと思います。

○黒川係長 ありがとうございます。

では、引き続き別紙5の(3)「令和6年度『食べてフレイル予防』事業の進捗状況について」、お伝えさせていただきます。

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施という事業の中でやらせていただいております「食べてフレイル予防」事業、こちらは集団支援と個別支援の両方を実施することが条件になっております。

1「集団支援」です。栄養講座は住区センターを中心に実施しております。

住区センターは先ほども少し話題に上がりましたが、足立区で48か所、プラス鹿浜いきいき館と悠々会館の50か所で住区推進課が管理する通いの場があるのですが、こちらのオレンジの枠の「ぱく増し栄養講座」のチラシを御覧ください。

令和6年度は36会場で「食べてフレイル予防」事業を希望されまして、実施

しているところでございます。前期に關しまして、改修中の施設などもございまして、35会場、35回の栄養講座になっているのですが、参加者が1,049人。後期に關しましては、こちらの資料をつかった1月24日現在ですけれども、29回実施の828人ということで、多分1,000人ぐらいになるかと思いません。合わせまして年間で2,000人近くの方が栄養講座に参加いただいている状況になっております。

(2)「栄養講座」です。大変好評で依頼が結構舞い込んでまいります。シルバー人材の北部ブロックでぜひ話をしてほしい、ということがありまして、10月22日に栄養講座を実施させていただきまして、141人に参加いただきました。千住ブロックでも3月12日にやってほしいといという依頼がありまして、実施予定となっております。

イの部分なのですけれども「デフケア足立クローバー」という、耳が聞こえない方たちのデイケアからも依頼がありまして、今週末の日曜日ですが栄養講座実施予定となっております。

(3)「筋肉上げマッスル測定会」ということで、集団支援の中で体組成計や握力計を使った体重、骨格、筋力、握力を測定する測定会を実施しております。今年度は35回以上ということで、毎月のように実施していただけるようにやっているのですが、参加人数や体重、握力などの数値に關しては、現在集計中ということで来年度報告できればと思っております。

先ほど触れさせていただいた(4)「リハビリのプロと学ぶ筋肉維持講座」です。あだちPOSネットワークの理学療法士

さん、作業療法士さんにご協力いただきまして、今年度4回既に実施させていただきました。参加者が157人ということとでかなり多くの方に参加いただいております。あと2回実施予定ということになっております。

項番2、「個別支援」です。

(1)「対象者」。後期高齢者健診受診者の中で、低栄養の基準に該当した方の75～79歳の方74人に対し、3～4か月間の訪問2回を含む栄養相談を実施させていただいております。男性に關しては、今年度少し幅を広く拡大しまして、BMI20、少し体格が大きいと言いますか20まで上げて対象者を広げ、実施しているところでございます。

対象119人に対して訪問し、初回栄養相談を実施。人数が56人となっております。こちらも年度末には結果をまとめて来年度報告できるようにさせていただきます。

項番3、「令和7年度の事業変更点」ですが、36会場で集団支援をさせていただいているところですが、新たに4会場が令和7年度から希望するということで手が挙がりましたので、4会場を加えまして来年度は40会場。栄養講座のほう前期後期合わせて80回実施する形で進めていくことになりました。

私からは以上です。

○酒井部会長 ありがとうございます。

非常に豊富な「ぱく増し」の資料ありがとうございます。これは持って帰っていいのですよね。どこでどういうものを行っているかとか、実際の「ぱく増し」の現場で商品の提供があるか詳しく出ています。これを生かしていきたいなど。

学習センターの冊子に載っているのは

非常に分かりやすいし、目をひきますね。これはすばらしいと思います。

これについて意見はどうですか。

ご報告という点でよろしいですかね。

それでは、報告事項の最後になります。

(4)「生活支援体制整備事業における課題および今後の取り組みについて」、報告をお願いしたいと思います。

○河内係長 こちらにつきましては、介護予防生活支援系の河内から初めに紹介させていただきまして、ご出席いただいています基幹地域包括支援センターの堀課長に途中からバトンタッチさせていただきたいと思います。

では、生活支援体制整備事業は令和2年から本格的に始めましたが、毎年課題等、地域包括支援センター及び基幹地域包括支援センターと連携しながら進めてまいりました。こちらについて、令和6年度の課題の報告と今後の取組について、別紙6-1にありますピラピッドの。あと別紙6-2にありますホチキス留めの基幹地域包括支援センターの堀課長のところにつくっていただいた報告書を基に報告させていただければと思います。

では、堀課長お願いしてもよろしいでしょうか。

○堀委員 ちょっと時間が短くなりましたので、できるだけ簡単にお話しさせて頂きたいと思います。

別紙6-1の会議体の流れの中で、特に基幹地域包括支援センターでは下から2段目の「一層二層連絡会」、それから「生活支援体制整備事業検討会」、これは両方とも包括支援センターの職員がメンバーになって協議をする場でございますけれども、こちらのコーディネートをさせていただきまして、取りまとめた結

果を本日報告させていただきます。別紙6-2になります。

私どもは委託でお預かりしているところは、2件の報告事項がありまして、1つが地域資源の把握に関する調査報告。それからもう一点が地域課題の抽出に関する報告の2点でございます。こちらの報告書はパワーポイント資料ですが、その2点を合わせて取りまとめたものでございます。

1枚めくっていただいたところからが地「域資源の把握」でございまして、足立区の場合は、今のところ通いの場の数というのを地域資源と定めておりますので、そのデータについて、現状の通いの場のリストの集計結果に基づいて統計情報を掲載してございます。

もう一枚めくっていただいて、ベースにしている通いの場リストは、8月現在の数字ですけれども、総数で223となっております。今12月に集計を行ったところで、248という最新値に変わっておりますが、そのようなところでございます。

包括圏域ごとの登録数と活動内容は、スライド番号で申しわけないです、8番のところにスライドがございます。これは総数223を包括の圏域ごとにどんな場所がどれくらいあるかということを示したものでございます。

大分ばらつきもあるところでございまして、ここまで詳細に見るのはこれまでなかなかなかったところでございますが、今年度、区のホームページに通いの場リストを掲載したということで、ある程度データを固めることができたということで形にしたものでございます。

ただし、今後モニタリングしていくに

当たって、ベースになる資料をもう少し精査しなければいけないところがありまして、今ここに掲載している数値は確定値ではございませんので、来年度はもう少し前後する形で変わって報告させていただくことになるかと思えます。

次が、Ⅱ「地域課題の抽出と解決の方向性」でございまして、もう一枚めくっていただいた上段の2「抽出した地域課題と取り組みの方向性」に要約の全てを掲載してございます。

今年度抽出した課題としましては、発足当時からの課題とも言えるのですが、改めて担い手の確保、発掘が大きな課題になってきているということと、2つ目には共食の場の支援策が必要だという意見。

それから最後に、活動の場所が限られているために、場所の確保も大きな課題だという、この3点が包括支援センターから25センターの協議の中で抽出された3つの地域課題でございました。

それから、業務課題につきましては、包括支援センターが業務上当たっている壁を表していると思うのですが、1つは介護予防のための元気アップ教室等が、活動内容にウォーキングを設定しておりますが、ウォーキングだけだとマッチングがなかなか難しい、というのが包括の現場感覚だそうでございます。

それから評価に関してでございますが、これは地域資源の創出を図るに当たって、住民の方、プログラムに対して伴走支援を行うところがございますが、今は結果としての数字だけですので、そうしたプロセスも評価してほしいというご意見が出ております。この辺は継続検討となっております。

蛇足ではございますが、担い手の不足のところ非常に難しいところございまして、今日、新しい「あだち脳活ラボ」の話の中で包括ケアのシステムの在り方についてもお話がございましたが、やはりオンラインで入ってきた方をリアルの地域包括ケアシステムの中にどのように結びつけていただけるかが一番関心のしどころでございます。包括の現場も足で回ってはいるのですけれども、なかなかリーチできない住民の方が、ひょっとするとデジタルに掘り起こすチャンスがあるのではないかということ現場としては期待するのですが、進めていただく中で、その後、実際に包括ケアを形成している地域ケアのメンバーのところデジタルで掘り起こされた住民の方がつながれてくるというリアルの仕組みに接続していただくような流れを将来的には期待したいと思っております。

少し長くなりましたが、以上でございます。

○酒井部会長 ありがとうございます。

今日は時間の関係もあるのですが、ほんの少しだけでもこの報告事項に関して皆さんご意見があれば。

よろしいですかね。

今日の高齢者部会は、本当の体力測定と脳活ラボがこのように営まれるのだなと体験できて、委員の皆様と共有できたことは本当によい機会だったと思えます。

デジタルとアナログの結びつけが大事なのだという最後のお話が非常に心に残りました。一層二層連絡会の検討結果というものが非常に重要ということが分かりました。

先ほど、デジタルの重要性、特に脳活

ラボはこれからどんどんつくり上げていく部分ですので、皆で参加者が増えていくものに、仕組みにしていけたらと、皆様の意見を経て、進めていきたいと考えていくところです。

それに当たっても、はつらつ高齢者部会の勧奨する事業って何だろうと考えたときに、今、脳活ラボが旬ですからそちらに行きますが、やはりもともとあった講座にしても大事なものは残して参加者を増やしていく作業は、地域資源を生かす作業は重要なのだなと感じました。

私から今日の部会の感想を述べさせていただきます。

今日はありがとうございました。

では、事務局にお返しいたします。

○司会 酒井部会長、ありがとうございました。委員の皆様におかれましても、活発なご意見、ご質問を頂きましてありがとうございます。

委員の皆様には事務連絡がございます。本日をもちまして令和6年度はつらつ高齢者部会は全ての開催が終了となります。令和7年度の開催につきましては、改めてご案内いたしますので、よろしくお願いたします。

それでは、これにて令和6年度足立区地域包括ケアシステム推進会議第3回はつらつ高齢者部会は終了といたします。

本日はありがとうございました。